

東京多摩地区中学入試概況

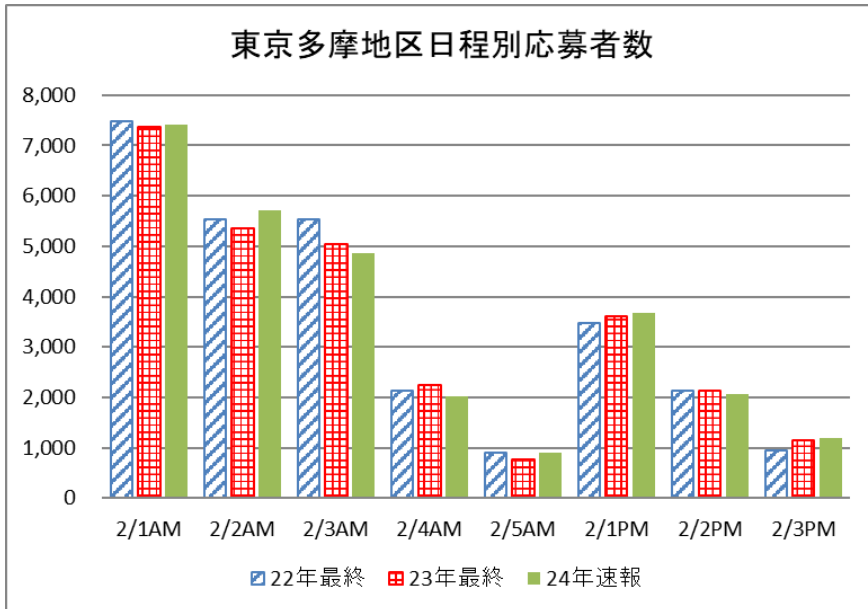
1. 概況 中学受験規模は昨年並みを維持、安全志向からの地元回帰も見られる

今年の郡部を含む多摩地区の公立小学6年生(義務教育学校を含む)の児童数は約34,100名で、昨年より約600名減っています。1月までに実施される帰国入試を含めた、2月28日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約30,200名で、昨年並みですが、コロナ・インフルエンザ対応の追試や追加の入試を行う学校などがあり、今後その分が上乘せされると最終的に昨年より少し増えるかもしれません。23区では減っていますが、多摩地区で減っていないのは、中学受験の拡大と

いうよりも、安全志向が強くなったことで、強まっていた都心志向、東京23区への受験生の流れが縮小し、地元志向が強まったことが理由でしょう。

上のグラフは日程別の3年間の応募者数比較です。応募総数では2月1日午前が今年も最多で約7,400名です。昨年とほとんど変わっていません。2日午前は約5,700名で、昨年より約400名増えています。3日午前は約4,900名で200名弱減っています。4日午前は約2,000名、5日午前は約900名とかなり少なく、1日午後の方が多くなっています。4日午前は約200名減り、5日午前は約100名増えました。

午後入試は1日午後が約3,700名で昨年より100名以上増えていて、2日午後は約2,100名と4日午前とほぼ同じです。昨年より約100名減っています。3日午後は約1,200名で昨年とほぼ同じです。1日午前には多くの受験生にとって第一志望の入試ですから、応募者が最多になります。1日午後や2日午前、3日午前は入試を休むケースもあって1日午前よりも応募者は減りますが、1日午前の約5割~8割の応募者数です。これに対して4日午前や5日午前、2日午後や3日午後



ことがわかります。多くの受験生は1日午前・午後、2日午前、3日午前で受験を終えていて、ここまでで合格を決めているわけです。

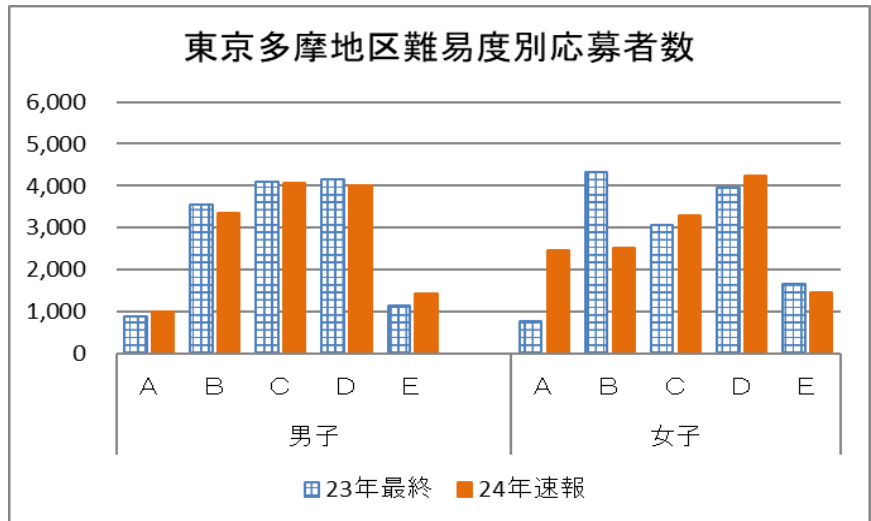
次に、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA~Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年

の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広い

ないでしょう。上位校のBグループは約2,400名で昨年より大きく減っています。学校の中にはBグループからCグループに変わった学校があったことや、多摩地区の北部では隣接する埼玉県西部に開智所沢中等が開校したことで、1月中旬にそちらに合格して入学を決めてしまった受験生もいたことなどが影響しています。

中堅校のCグループは約4,100名、やや入り易い学校のDグループは約4,000名でそれぞれ昨年より100名程度減っています。入り易いEグループは昨年より約200名増えています。グラフのようにCグループ、Dグループ、Eグループは昨年とあまり変わっていないように見えますが、実際にはBグループからCグループ、CグループからDグループ、DグループからEグループへの学校の変更や、安全志向による受験生の選択の変化もあつての結果です。

女子では難関校のAグループと上位校のBグループがそれぞれ約2,500名でほぼ同じですが、Aグループが大きく増えてBグループは減っています。吉祥女子が難化して昨年のBグループからAグループに変更になったことが大きい理由です。同校は女子校ですから男子のグラフにはこのような動きが表れません。中堅校のCグループは約3,300名、やや入り易いDグループは約4,300名で、それぞれ約200名、約300名増えています。入り易いEグループは約1,500名と少なく、約200名減っています。男子と同様、学校の難易度の変更のほか、安全志向の強まりで、受験生が難度の低いグループから志望校を選んでいるケースも増えての結果です。ただ、Eグループを選ぶ受験生は少数派です。



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…吉祥女子・明大明治・早稲田実業
- B…成蹊・中大附属・帝京大学(特待)・桐朋・法政大学・明大八王子
- C…桜美林・大妻多摩(国際進学)・晃華学園・穎明館・創価・帝京大学(一般)・東京学芸大小金井・東京電機大・ドルトン東京学園・八王子学園(東大医進)・明治学院
- D…大妻多摩(総合進学)・共立女子第二・工学院大附属・聖徳学園・玉川学園・多摩大聖ヶ丘・東京純心女子・桐朋女子・日大第三・八王子学園(一貫特進)・武蔵野大学・明星(特選)
- E…国立音大附属・啓明学園・駒沢学園女子・サレジオ(小平)・自由学園・白梅学園清修・帝京八王子・東海大菅生・東星学園・日体大桜華・八王子実践・藤村女子・明星学園・武蔵野東・明星(総合)・明法・和光

以下、各校の入試状況を見ていきます。

2. 男子校・女子校

まず男子校から。桐朋は2月1日午前の1回が昨年並みの応募者数でしたが、2日午前の2回は増えています。御三家などの23区の難関校受験生の併願校では地元の学校を選ぶ動きもあつての増加です。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は1回、2回とも昨年並みで、2回は実質倍率が上がりました。しかし、合格最低点は1回、2回とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度はあまり変わっていないようです。

明法は国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制でしたが、今回から募集段階でのコース分けを取りやめました。今年も小規模な入試です。高校は5年前から共学校になっていますが、2025年度から中学も共学化すると公表していて、来年度は変わった入試結果になるでしょう。高校が併設されていないサレジオ(小平)も、今年も小規模な入試でした。

女子校は吉祥女子から。2月1日午前の1回は応募者が若干減って、2日午前の2回は昨年並みの応募者数でした。実際の受験者数、合格者数は1回、2回とも昨年並みで、1回の合格最低点は昨年並みですが、2回は少し下がっています。出題内容や得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。晃華学園は2月1日午後の2回の応募者が昨年並みですが、1日午前の1回と3日午前の3回は少し減っています。実際の受験者数も同傾向ですが、合格者数は各回次とも昨年並みで、合格最低点は1回が少し下がりました。少し入り易くなったかもしれません。2回と3回は昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

大妻多摩は一昨年から国際進学、総合進学の2コース制です。各回次合計の応募者数は昨年並みですが、2月2日を午前から午後に移して増えた分、4日午前は減っています。合格最低点の一部比較できないものもありますが、概ね昨年並みで難度に変化はなさそうです。共立女子第二の各回次合計の応募者数は少し減っています。2月2日午後の入試の減少が目立っていて、他校併願で遅い日程まで挑戦しようとする受験生が減っているのでしょう。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度面は各回次ともあまり変わっていないようです。

桐朋女子の各回次合計の応募者数は少し増えていて、2月1日午前のAが増加の中心ですが、他の回次も応募者は減っていません。実際の受験者数、合格者数は昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、不合格者が少なく、難度は変わっていないようです。白梅学園清修の各回次合計の応募者数は減っています。実際の受験者数、合格者数も減っていて、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、今年も不合格者が少なく、難度は昨年並みでしょう。

東京純心女子、駒沢学園女子、藤村女子、日体大桜華女子は、各校とも今年も応募総数200名未満の小規模な入試でしたが、東京純心女子は各回次合計の応募

者の増加が目立ちました。

3. 男女校(私立)

国立中と公立一貫校は次の項で取り上げます。まず附属校カラーの強い学校から。

早稲田実業は、女子の応募者が昨年並み、男子は増えています。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は男女とも昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、もともと高難度ですから、男女とも昨年とあまり変わらない難度でしょう。

明大明治は2月2日の1回、3日の2回の男女とも応募者が増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者数は各回次男女とも昨年並みで、実質倍率は少し上がっています。1回の合格最低点は男女とも昨年並みですが、2回は少し下がっています。出題内容との関係でしょう。2回は高倍率ですから、1回、2回とも難度に変化はなさそうです。

系列校の明大中野八王子は、2024年度から校名から中野を外して「明治大学付属八王子」に変更されます。2月3日午前のA2回は昨年並みの応募者数ですが、1日午前のA1回と5日午後のBは増えています。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数はA1回とA2回が昨年並み、Bは増えています。合格最低点はBの男子が昨年並みだったものの、他の回次は男女とも少し上がっています。出題内容との関係はありますが、受験生の学力層が上がって少し難化したかもしれません。

法政大学は2月1日午前の1回が応募者増加、3日午前の2回と5日午前の3回は昨年並みでした。実際の受験者数は各回次とも少し減っています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し入り易くなったかもしれません。中央大学附属は帰国生入試が昨年並みの応募者数、2月1日午前の1回的女子が増えています。男子と3日午前の2回の男女は少し減っています。実際の受験者数も同じ傾向ですが、合格者数は各回次男女とも昨年とあまり変わっていません。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていません。出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。

成蹊は国際学級も含め、各回次とも応募者が少しずつ減っています。小規模な入試の国際学級は昨年並みの実受験者数で合格者数もあまり変わりません。一般

入試は2月1日午前の1回、4日午前の2回とも実受験者数は減っていますが、合格者数は1回の男子が減少、2回の男子は増加、女子は1回、2回とも昨年とあまり変わっていません。合格最低点は1回が男女とも少し下がり、2回は男女とも昨年並みでした。出題内容との関係はありますが、1回は少し入り易くなったかもしれません。2回は昨年並みの難度でしょう。

独特な存在の創価は、2月3日午前にプレゼン入試を新設したため、各回次合計の応募者数が大きく増えました。実際の受験者数も増えましたが、合格者数は2回合計しても昨年と同じです。学科試験の1日午前は合格者が減ったわけで、合格最低点は公表されていませんが、少し難化したかもしれません。

明治学院は各回次合計の応募者数が少し減っていますが、内訳を見ると全回次で男子は少し増えて、女子は減っています。実際の受験者数も男子は各回次とも少し増えていますが、女子は減っています。合格者数は男女各回次とも昨年とあまり変わっていません。合格最低点は少し差がある回次もありますが、概ね昨年と変わっておらず、難度に変化はなかったようです。

玉川学園は国際バカロレア(IB)クラスと一般クラスの2コース制です。各回次合計の応募者数はほぼ昨年並みで、各回次とも応募者数は昨年とやや増減が見られます。合格最低点は例年未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。東海大菅生は医学・難関大コースと一貫進学コースの2コース制で、入試結果は両コース一括での公表です。各回次合計の応募者数は減っていますが、女子が減少の中心です。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度は変わっていないようです。

日大第三は、各回次とも男子の応募者は少し減って、女子は昨年並みです。実際の受験者数、合格者数は各回次合計で少し減っていて、合格最低点は昨年並みです。難度は変わっていないようです。なお、マスコミでは大学のトラブルが報じられましたが、同校の人気にはあまり影響は出ていないようです。

国立音大附属、帝京八王子、和光は今年も小規模な入試でした。和光は応募者が少し増えています。

系列大学があっても附属校カラーが薄い学校では、帝京大学の2月1日午前の1回の応募者は男子が昨年並み、女子は増加、2日午前の2回特待選抜は男女とも昨年並み、3日午後の3回は男女とも減りました。

実際の受験者数も1回と3回は応募者数と同様、2回の男子は減って女子は昨年並みです。合格者数は概ね受験者数の増減に対応していますが、3回の男子は増えています。合格最低点は1回の男子が下がって女子は上がり、難度も同じように変化したようですが、2回特待選抜と3回は昨年並みで、難度もあまり変わっていないようです。

桜美林の各回次合計の応募者数は昨年並みですが、男女、回次ごとでは増減が見られます。実際の受験者数の合計はやや減って、合格者数は若干増えています。合格最低点は2月1日午前の総合型と3日午後の入試が少し上がっていますが、出題内容や得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みで、全体としては難度は変わっていないようです。

東京電機大の各回次合計の応募者数は少し増えています。2月1日午前の1回が増加の中心ですが、男女別では女子が減っている回次もあり、男子の人气が優勢です。実際の受験者数の合計は少し増えています。合格者はやや絞った結果です。合格最低点は1回の男子が上がっていて、少し難化したかもしれません。女子や他の回次は少々上下が見られるものの、難度は概ね昨年並みでしょう。

工学院大附属は先進コースとインターナショナルコースの2コース制です。各回次合計の応募者数は減っています。昨年まで3年連続で増加していたので、人气が一段落したのでしょうか。受験者数の合計も減っていて、合格者数の合計も減っていますが、受験者数ほどは減っていません。平均の実質倍率は下がっていて、合格最低点は2月1日午後、2日午後が昨年と変わっていませんが、他の回次は下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。武蔵野大学は各回次合計の応募者数が少し増えました。実際の受験者数、合格者数も少し増えています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、平均の実質倍率はあまり変わっていませんから、難度は昨年並みでしょう。

多摩大聖ヶ丘は全回次男女とも応募者が増えていて、人气が上がっています。実際の受験者数も増えています。合格者数も各回次合計では増えています。受験者数の増加ほどは増えておらず、平均の実質倍率は上がっています。このため、2月2日午前の適性検査型の合格最低点は昨年並みですが、他の回次は上がっていて、特に2月1日午前、午後、3日午後には上昇が目

立ちます。出題内容との関係はありますが、難化した入試だったようです。

明星は特選と総合の2コース制です。各回次合計の応募者数は昨年並みですが、入試の設定変更の関係もあって特選コースは応募者が増加し、総合コースは減っています。実際の受験者数の合計は昨年並みですが、合格者数は減っていて、絞っていることがわかります。本稿執筆時点で合格最低点が公表されていませんが、特選コースの難度は昨年並み、総合コースは少し難化したかもしれません。

進学校では、穎明館の各回次合計の応募者数は昨年並みですが、男子は応募者が昨年並みまたは減少、女子は昨年並みまたは増加していて、全体的に女子の人氣が優勢です。実際の受験者数の合計は増えていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率は上がっています。合格最低点は2月2日午前の2回は上がり、2日午後の3回は下がっていて、他の回次は昨年並みです。出題内容や得点分布の関係はありますが、全体としてはやや難化したかもしれません。

ドルトン東京学園の各回次合計の応募者数は少し減っていて、男子が減っています。女子は昨年並みです。実際の受験者数の合計は減っていますが、合格者数の合計はやや増えています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、少し入り易くなったかもしれません。

八王子学園は東大医進と一貫特進の2コース制です。各回次合計の応募者数は少し増えています。女子は全回次増えています。男子は昨年並みや少し減っている回次もあります。実際の受験者数の合計も増えていますが、合格者数は昨年並みで、平均の実質倍率は少し上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、東大医進の難度は昨年並み、一貫特進はやや難化したかもしれません。

聖徳学園の各回次合計の応募者数は増えていて、女

子よりも男子の応募者の増加の方が大きくなっています。実際の受験者数の合計も増えていますが、合格者数の合計は昨年並みで、平均の実質倍率は上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、全体的に少し難化した入試だったようです。

独特な教育方針の明星学園の各回次合計の応募者数はやや減っています。2月2日午後の入試の減少が中心で、他の回次は昨年並みの応募者数です。実際の受験者数、合格者数は合計では昨年並みで、本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、難度に変化はなさそうです。

自由学園は2024年度から男子部、女子部を統合して共学化しますが、今年も小規模な入試でした。武蔵野東、啓明学園、東星学園、八王子実践も、今年も小規模な入試でしたが、東星学園は応募者の増加が目立ちました。

4. 男女校(公立一貫校、国立中)

都立の中高一貫校も見てみます。三鷹中等は男女とも応募者が減りました。もともと高倍率なので、まだ3倍や4倍の実質倍率では入り易くなったとは言にくく、難度に変化はないでしょう。南多摩中等は女子の応募者は減っています。男子の応募者はやや減に止まりました。同校も実質倍率はまだ高く、難度に変化はなさそうです。武蔵高附属は男子の応募者が減っていて、女子は昨年並みです。男子は実質倍率が2倍台に下がっていて、少し入り易くなったかもしれません。女子も2倍台ですが、昨年並みの難度だと思われます。応募者数が減っている都立の中高一貫校が多い中で、立川国際は増えていて、男子の一般枠は昨年並みの応募者数、女子と帰国・外国人枠は増加、実質倍率は上がっていて、少し難化したようです。

国立の東京学芸大小金井は小規模な入試の学校で、今年も応募者数は昨年並みの小規模な入試でした。

MEMO